

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 原発廃炉後の女川を見据えて	10月には、宮城県知事選挙がありました。
	翌日の新聞に、「20年先を見据えて、筋肉質で小さな行政体をつくっていく」という、当選した村井宮城県知事の談話が載っていました。
	20年後といえは女川原発2号機は40年を超します。
	(1) 再生可能エネルギーに対してどのように取り組むのか、町長の手腕のみせどころです。
	自然と調和し、女川でまかなえる循環できるものが望ましいと考えますが、どのように考えていますか。
	(2) 電力会社と契約せず、アパートで蓄電池を備え電気の自給自足をしている人もいます。
	オフグリッドの情報が少なく、あまり知られていませんが、そのためには、蓄電池が重要な役割を担います。
	宮城県と県内6市町村で蓄電池に補助金を出しています。我が女川でも補助金の検討を。
	(3) 原発はいずれ必ず廃炉を迎えます。廃炉後を見据えて、ということですが、町長の描く展望、未来予想図はどのようなものですか。
	(質問の相手：町長・担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 財政能力を高めよう	以前の一般質問で、S I M2030を取り入れてはという内容を提案しました。
	昨年、予算化したがコロナで実現しなかった、という話を聞きました。
	国の補正予算案（11月26日現在）では、35.9兆円のうち、国債が22兆円を超えています。女川の財政よりも国の財政が心配ですが、国の財政が悪化すれば、当然女川にも跳ね返ってきます。女川独自の財政能力を高めなければなりません。
	S I M2030のご当地版を使い、住民とのワークショップを行っている自治体もあります。石巻かほくで女川中学校の租税教育が紹介されましたが、税金をいかに活用するかという教材にもなるかもしれません。
	S I M2030の利用によって財政能力を高めては。
	(質問の相手：町長・担当課長)